第二皇子
奴隷堕ち

喉の奥に
ブチ込まれる度
遠退きそうに
なる意識を
引きずり戻す
感じるのは
息苦しさと
口の中に広がる
不快な苦味
なかなか
器用であられる
暗殺を生業と
されているだけに
脳が沸騰
しそうな程の
怒りと屈辱

貴方の様な男は仕込み甲斐がありそうだ
いっそ意識を手放せてしまえたなら
どんなにマシかとさえ思う
お上手ですよ
アウラ様

どこで間違えた？
どこで失敗した？
この男の暗殺に失敗したことか？
それとも——
兄貴（アイツ）の忠告を無視したことか？

アウラ
反乱分子の討伐
ご苦労だったな
「ご苦労」？
肝心のリーダーを
獲り逃した俺への
嫌味か？
フイッ
何故
そうなる…
まさか…！
私はただ
お前が心配で――
ガシッ
！

待て
そのまま行こうとするなよ
怪我してる
たいしたことねえよ
擦り傷だ
傷が浅いからと油断しては駄目だ
すぐに手当を——

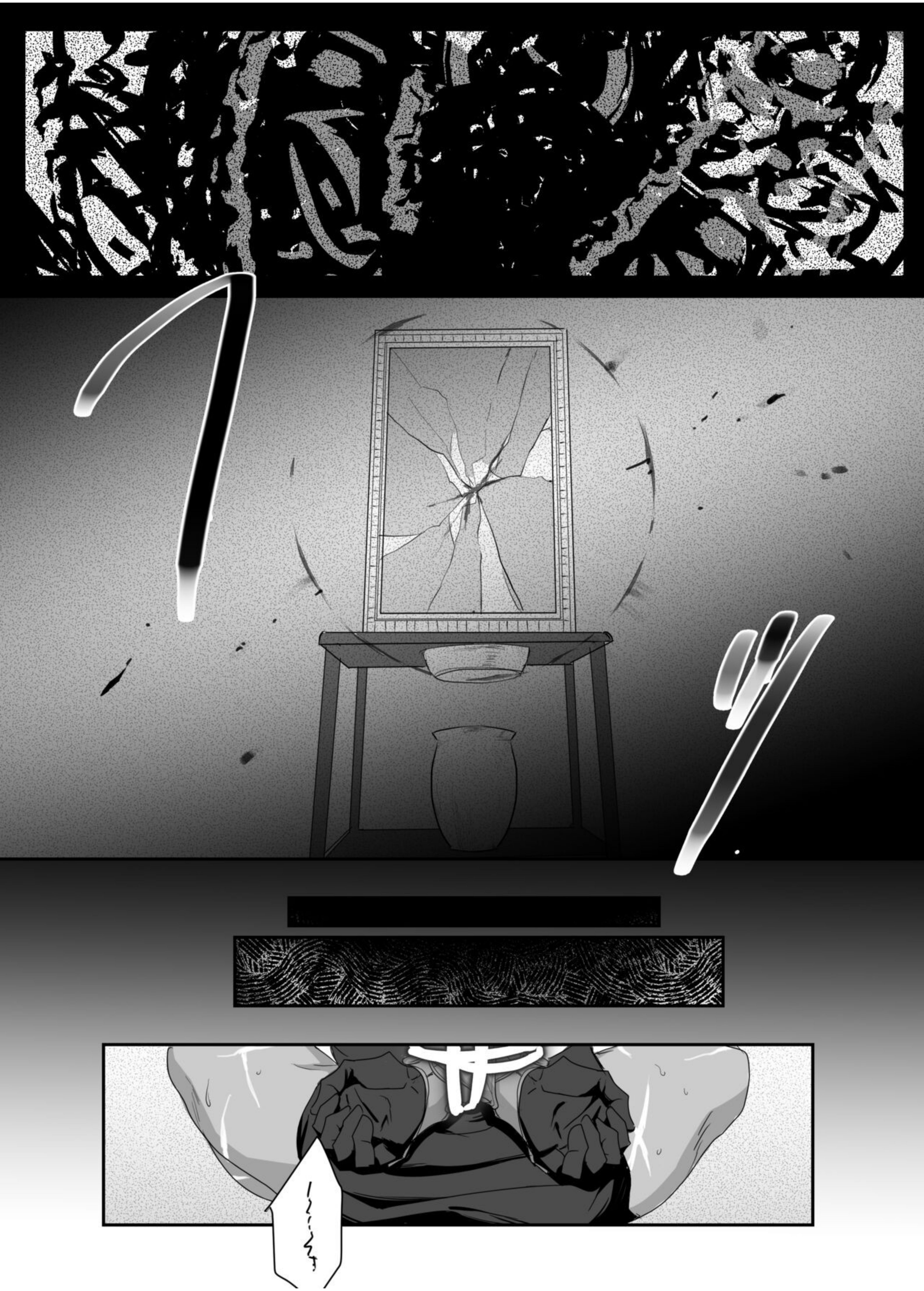
結構です
…休みたいので
他に用が無いのなら
失礼させて頂いて
よろしいですか?
〝皇太子殿下〟（兄上）
…わかった
ゆっくり休め

すまない
アウラ…
お前にばかり
負担をかけさ
せて
…この国は
生まれた順番が
全てだ
貴方は
貴方の責務を
全うしてくれ
そう
この国では——

第一皇子(兄)は生まれた瞬間から
その能力や素質に関係なく王位継承で次期国王
当然の様に陽の当たる道を歩くことを約束されている
一方
第二皇子(おれ)は
生まれた瞬間から暗器を握らされ
暗殺者として国を影から支える役割が与えられる
国の為と働けば働くほど
兄には尊敬と敬意が集まり
俺には
畏怖と嫌悪が募る

ただ産まれる順番が違うというだけで
クソッ
どんなに手を敵の血で潤そうと
この渇きは満たせない
っ….
なんだ…？
傷口がさっきより悪化して…
――思えば戦闘の最中
敵の握る刃の先が当たっただけなのに
妙に　熱かった

ブワッ
まさか…
油断した
俺としたことが
呪われた



ブッ
この国では精神操作の魔術を非人道的と見做し禁術としている
ゴボッ
ゲホッ
しかし水面下でそれらを使用する者が後を経たない
地位を略奪され没落した貴族の末裔――

反乱分子のリーダー
ジル・サイド
テメェ なにして…ッ
…?!
ゾゾッ
グイッ
少しでも歯を立てたら耳を削ぎ落としますよ?
大族に恨みを抱いておりクーデターを企てていた

ゴチュッ
ゴチュ
ジュプッ
ビクッ
ブル ブル…
ドクドク
ドク…
ブブッ
どんな気分ですか？

ゲホッッ
ゴホッ!!
自分が殺し損ねた相手にこんな形で汚されるのは…
この早漏野郎が
突っ込んだと思ったらすぐ射精しやがって
俺から逃げ回るのに忙しくてひとりでマス描く時間もなかったか？
そりゃ悪いことしたたな

ゾクッ
ぐッ…?!
テメェ…
なにした…?
ブル
心も身体も素直になれる魔法をかけてあげただけですよ
ブルブル…
じわ…
ほら…ペニスもこんなに反応させて

触るなッ
やめろっ
こんなに膨らませて説得力の無いお方だ……
あれ程抵抗しておいて
屈強な肉体を持ってしても
普段の貴方からは想像つかない程素直な身体
ほらもう動けない
あっ…
ハァッ
ハァッ

言ってごらんなさい
貴方の本心を
俺の――
本心…？
強がらず心の赴くままに
…おれ…は

おれ　は
必要と
されたい…
兄上に
認められて
臣下にも…
国民にも…
…

太陽のようなあの人の影としてではなく
隣に並び
共に歩いていけるような…
…よく分かりました
アウラ様にそんな尊い想いがおありだとは…
——ですが
残念です

ビリリ…
ビリ
この国に貴方を必要とする物などおりません
可哀想に
!!!
所詮貴方は不用品の二番手として
どんなになされようと誰も貴方の望みを叶えることは出来ないのです
ハア
ハア
──私以外は
私なら誰からも愛されない貴方の心を
ぶりるんっ
満たして差し上げますよ
…っう…あ…
ヌル

流石にこっちのご経験はないのか
いっ…
あ゛
初々しい薄紅色をしていますね
貴方の身体にこんな可愛らしい箇所があるなんて
うっ
卑猥でゾクゾクする
あぁっ
こんな下種野郎に辱められて
はぁ
は――…

甚振られ弄ばれて
貴方が望むのは本当にそれだけか？
なのに――
――いい…
ブルブル
きもち…ッ いい
どうしてこんなに満たされてんだ…？
こいつの声が頭にじんわり響いて
いいですよ 逝って
抗えない

頭がおかしくなりそうだ
ソコやめッ
ああっ
ビュルーッ
…ぐッッ
じりッ
こんな派手に射精して
ビクッ
溜まってたのは貴方の方だったみたいですね
ククッ

見てください
ぐりぃっ
ズ…
数年前貴方に傷付けられた右目です
結果視力は失ったが
代わりに特殊なコーティングに成功しました
そう
特に手の込んだやり方をせずとも
こうして数秒視線を合わせていれば
人の脳なんて簡単に洗えるんですよ
キィイイイイ

ゾゾッ
アウラ様は
私と視線をどれだけ
合わせていられると
思います？
この腐れ外道がッッ
あはは
まだそんな
口が聞けますか
地獄に堕ちろッ!!
ガッッ
おっ……と

いちいち言動が荒いんですから…
天下の第二皇子でしょう?
行儀良く
・・・・おねだりをして見せてください♡
あ…

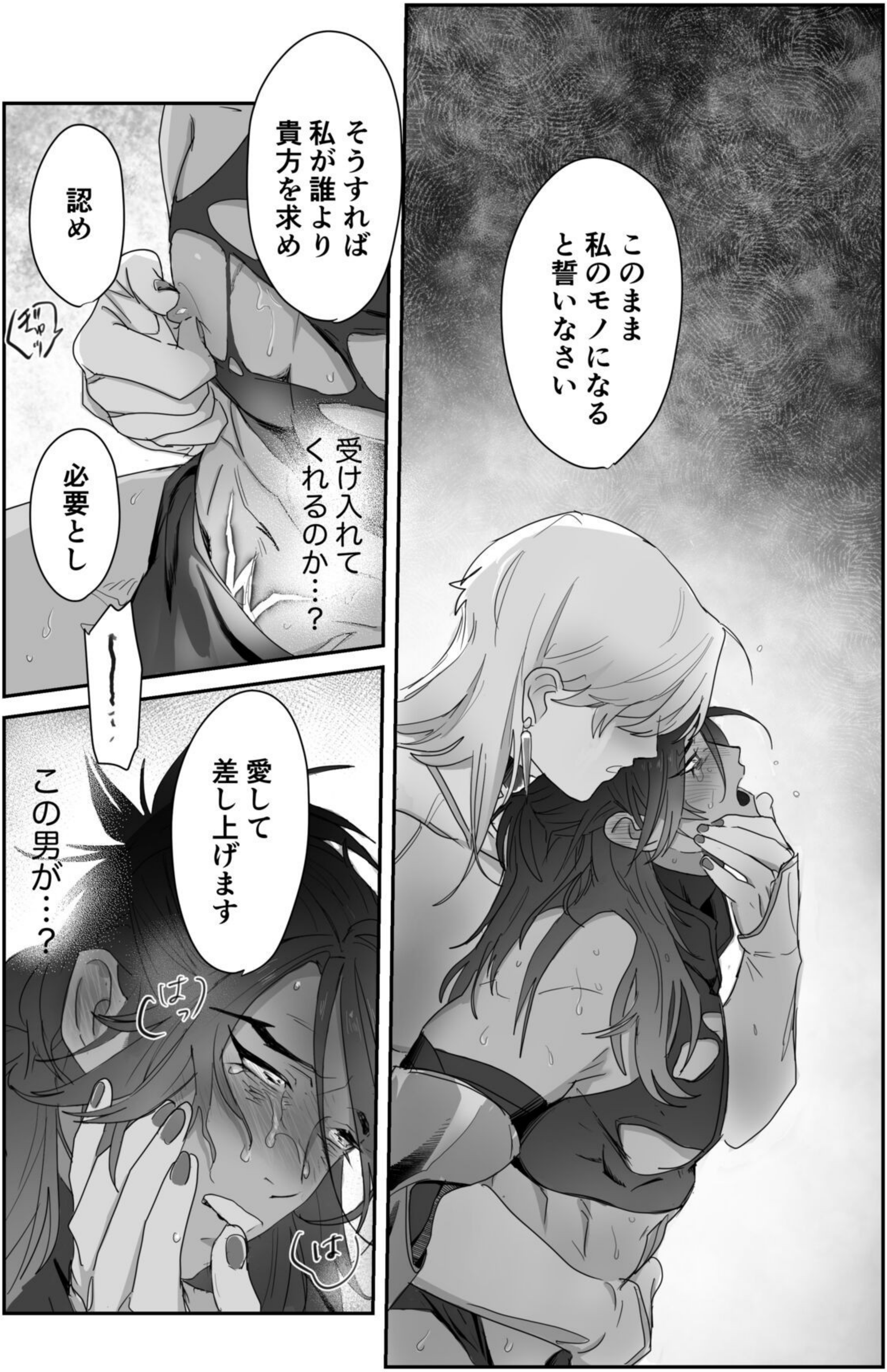
いれて
くれ…
あれ…おれなにいって——
おれを
お前でいっぱいにしてほし…

息ができな――
お望み通りに
してあげます
内臓が掻き分けられて…ッ

ビクッ
ふうん…
ひっ…♡
ガク
ガクガクガクガクッ
おやおや…
初めての割に早いですね…
やはり魔術への耐性が無いのか
ずる…
おっ…♡
あっあっ
無理矢理広げられてるのに
んぢゅっ♡
チカ
チカッ
きもちいい…♡

きつめに抱いているのに
随分善い声で鳴くんですね
あっ だってって
可愛いですよ
アウラ様が実はこんなに可愛い人だと世間が知れば
一躍人気者だ
王室も貴方を放っておかないでしょうに
──もっと
求められたい
はぁ…

認められたい
必要とされたい
誰でもいいから
おれを
愛して
ほし
ならば


このまま私のモノになると誓いなさい
そうすれば私が誰より貴方を求め
認め
必要とし
受け入れてくれるのか…？
――…
愛して差し上げます
この男が…？
はっ
は

お…おまえの
ものになる…
おれを…
誓うからッ
骨の髄まで――
はエッ
はあッ

バ
チュ
……お゛ッ♡
急に奥まで…♡♡
深ッッ…!
お゛づッ♡
パンパンッ
お゛っ
これはただの『契り』ではありません
今からその証を貴方のココに刻みます
うぐ
パンッ
きっと気に入るはずです…っ
おっ♡
パンパンッ

デカい上激し過ぎて
ズリンッ
ズンッ
おブリッ♡
ズンッ
善く味わって
こわれるッ♡♡
ずる…
ぐりぐり♡
おぐ当たって気持ちぃっ♡
ゴリ
ぶるる…っ
…じんブっ!!
あー……♡

ドピュ
か…からだ
膣内(ナカ)たくさん精子でてー…♡
ブプッブプ…
おかしぃ…あッ♡
パンッ
さあもっと力んで♡
ガクッ
ぜはッ♡♡

はッ…アウラ様…♡
私なら貴方を最後まで愛して差し上げます
正しく導いて差し上げます…♡

ハア…
腹が…ッ
ビクッ♡
コプコプ
——そう
貴方が望んだ
出された精液(モノ)で
苦しくて…
リア
なにも考えられない
——…♡
ビクッ♡
ドクン♡
ゴポ
この先ご自身のお立場に病むことも思考することもなくなるだろう

お前の人生は
私がもらう

シャナ様
行方不明でしたアウラ様がお戻りに…
!!
バタ
バタ
バタ
アウラッ

バ
サッ
よく戻って
来てくれた…
俺は愚かな人間だ
お前の心情に内心
気付いておきながら
今まで
すまなかった
ギゅ…
見て見ぬ
振りをした
弟のお前に寄り添って
やれなかったことを
後悔しない日はない
…おれも

ドッ
ザッ
城(ココ)を離れてからようやく解った気がする
兄上が俺をどういう目で見ていたかを
ズ‥
…!?
ぺへー‥

ビクッ♡
ほら
ペロ…
すげぇ脈打ってるぜ
…ンっ
ビクッ
ビクンッ
これはっ
ンんっ
ビクッ
ビクン
…
血の繋がった弟に欲情したんだろ?

俺はいつだって誰•かの言いなりだからな
!!……
その望み叶えてやるよ
どのみち俺たちもこの国もおしまいだ

発 行
パコズ

シナリオ
中山酢飯

作 家
メイドキメラ

お問合せ
perozu.comic@gmail.com